

令和2年度第1回尾道市総合教育会議会議録

日 時 令和2年11月26日（木） 午後1時15分 開議
場 所 尾道市庁舎4階 委員会室
署名委員 佐藤教育長

午後1時15分 開会

○末國庶務課長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和2年度第1回尾道市総合教育会議を開催いたします。

初めに、本会議の主宰者であります平谷市長から御挨拶をお願いいたします。

○平谷市長 皆さんこんにちは。

大変お忙しい中、総合教育会議ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。

令和2年度の第1回尾道市総合教育会議の開会に当たり、一言御挨拶をさせていただきます。

2020年という年は、2市3町が合併した尾道にとっては、この年が合併特例債の5年延長した最終年度ということで施設整備に取り組んできた経緯がございます。そして、合併したそれぞれの市、町全てにわたって、防災の拠点、また交流の拠点としての庁舎整備が終了する方向で取り組んで、この年度の末には一応完成するという事と、その2020年度が一つの区切りになるなと思っていた矢先に新型コロナウイルス感染症ということが発生したということです。私たちにとっては、世界が誰も経験したことがない、こんなに移動制限を受けるとか、日常の生活の制限を受けるとか、会いたい人にも会えないような状況が続いてきているという中で、学校においては、卒業式であったり、入学式であったり、様々なことで制限されながら、また国の緊急事態宣言を受けたりする中で、学校休業という形を余儀なくされながら取組をしてきたように思っています。

そして、改めて学校を休業にした後に学校を再開するということがいかに難しいかということも経験させていただきました。その中で、尾道市においては幸い感染者が広がっていないという状況の中で、ある意味で言うと学校再開ということも決断できるような環境がありましたが、どれ一つとってもそれぞれ市民の皆様の協力があったということで、その中で中学校2年生のリーダー研

修会の「心ひとつに つながろう尾道」を合い言葉にしながら、コロナに負けるなという声援を受けて、みんなで乗り越えていこうということで、チーム尾道という言葉が乗り越えていこうという標語で現在も取り組んでいる状況です。

非常に長い時間かかっていますが、3月の3連休は、コロナというのは一体どこに尾道にあるのかという思いをしながら、観光地ということの中で非常にある意味でいうと絶好調な時期でございましたが、4月7日の緊急事態宣言以降、移動制限ができて、誰もいない商店街とか、誰もいないラーメン屋とか、誰も経験したことのない風景がございました。幸いにして懸命に取り組んでいく中で、9月のシルバーウィークと言われる4日間はまた改めて観光の人たちが訪れるということで約6か月かかったように思っています。

そして、今現在もコロナの感染拡大ということで各地域での取組もされていますが、チーム尾道でみんなで取組もうということの中で、感染意識が高まっている日常生活の中で、幸いにも大きな拡大を見てないという状況です。子供にも感染者が出てないという状況に感謝をしているところです。

そして、今日もある店の人と話をして、10月、11月の売上げが、前年よりも上になっているということで、多くの人に来ていただいて、非常に励みにはなっているということです。

その中で、これから新しい年を迎える年末年始になるのですが、緊張感を持って取り組まないといけないという状況があると思いますが、2020年度は新しい2021年に向けて、逆に新しい尾道に向かってのスタートの年になるように思っています。その中で、私たちはデジタル化という話に取り組むということになろうというふうに思います。

もともと2040年に自治体の総合戦略ということで、20年後の戦略ということで国のほうは構想して取組をしていましたので、その中においては、ICTとか、AIとかを使った行政運営というのがあったのですが、JR西日本の関係者と話をしていると、その20年が、今2020年から2040年が一気に吹き飛んで、20年後を想定したまちづくりとか企業経営はもうできない状況になっていると、その中でデジタル化ということというのが私たちにとっては大きな課題になっています。議会で承認いただきました、今光ファイバーが通ってないところ、また旧市内でも光ファイバーが少し薄いようなところも含めまして、来年度中には全て光ファイバーを設置すると、合わさって子供たちの環境ということで、国が言われているGIGAスクールの取組を開始するというので、逆に言うと2021年、本年も中学校には配備されて、来年2月いっぱいには小学

校も一人一人入っていくということになるかと思えますけど、新しい教育のスタイルが求められる時代になってきたなというように思っています。

そういう中では、スマートシティということ 키워ドに挙げながら、新型コロナウイルス感染症からの新しいスタートということで取り組んでいくようになろうと思えます。尾道も行政のシステムの中にはデジタルファースト宣言を行いながら取り組んでおりますので、今後は皆さんが新しい社会に向けて取り組んでいくと、そういった社会の中で生き抜いていく子供をどう育てていくかというのが問題になるのだらうと思えます。

新型コロナウイルスの中で考えていく社会というのが、あるいはその中で考えていく教育というのがあろうかと思えますが、昔から教育は不易流行、変えてはいけない、変わってはいけないものもあるという中で、教育的な手法の分野においては少し変えていくということが必要になってくるのかなと思っています。本日はお手元の次第のとおり、2つを議題としたいと考えております。

教育委員の皆様には、本年度はそういった環境の中で尾道市の教育行政ということで御指導いただきながらということでございますが、そういった環境をみんなで乗り越えて新しい時代につなげるということで、今日は2つの議題もそうですが、忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

○末國庶務課長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

尾道市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、これより市長が議事進行を行います。

○平谷市長 それでは、本日の会議録の署名人は佐藤教育長を指名いたします。よろしく申し上げます。

それでは、本日は議題を2件上げております。

まず初めに、成人式についてですが、もうこれは御承知のとおり、成年年齢の引下げに伴う内容についていろいろ課題がありながら、どのようにしていくかということについてでございますが、成年年齢引下げに伴う成人式の対応についてを議題といたします。

民法の改正によりまして、令和4年度から成人年齢が引き下げられることになりました。尾道市の成人式の今後の在り方について、皆さん方の意見をお伺いして、取組をしていきたいというふうに思います。

まずそれでは、説明を生涯学習課長からお願いいたします。

○内海生涯学習課長 市長、生涯学習課長。私のほうから、令和4年度以降の尾

道市成人式の開催方針について御意見をいただければということで協議事項に上げさせていただきました。

先ほどの市長からの説明とやや重複する部分もございますが、これまでの経過も含め、少し御説明をさせていただきます。

現在、尾道市の成人式は、当該年度中に20歳に達する学年を対象に、1月、成人の日の前日に行っております。平成30年6月に改正民法が成立し、成年年齢が現在の20歳から18歳に引き下げられることが決まりました。これに伴い改正民法が施行される令和4年4月1日以降に開催する成人式において、対象年齢をどうするのか、現在の20歳から18歳に引き下げるのか、また開催時期をどうするのかという諸課題を検討する必要が出てまいりました。

成人式は古くは元服に由来するようですが、現在のように20歳で成人式が行われるようになったのは戦後に入ってからのことです。成人式そのものは法律で定められたものではなく、各自治体の判断で行っているものでございます。

なお、国民の祝日に関する法律第2条で成人の日については趣旨が定められております。これによると、成人の日は大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする成年を祝い、励ます日と定められております。

それでは、資料の1を御覧いただきたいと思います。

1番目の比較検討として、成人式の対象年齢を18歳にした場合と20歳にした場合のメリット、デメリットを比較した表を記載しております。内容は御覧いただければと思いますが、経済的な負担をどう考えるか、集まりやすい機会はいつかといった視点でメリット、デメリットを分けております。

次に、2番目、尾道市社会教育委員からの意見聴取でございますが、今年7月15日に開催した社会教育委員会会議の中で、成年年齢引下げ後の成人式について御意見を伺いました。委員からは、18歳開催となると出費が重なるため、これまでどおり20歳のほうがよいのではないかといった意見を頂戴しております。

次に、3番目、県内他市町の状況でございます。

尾道市を除く22市町のうち、対象年齢を20歳のままとすることを既に決定している市町は8市町、対象年齢を20歳のままとする方向で検討している市町は5市町、現時点で方向性を持っていないのは、ここに府中市しか書いてございませんけど、府中市など残りの9市町ということでございます。

次に、4番目、成人式の時期や在り方に関する報告書でございます。

こちらは、法務省が行ったアンケート調査から抜粋したものでございます。今年3月に公表されたものでございますが、16歳から22歳の年齢層に対するア

ンケート結果として、71.9%、7割を超える方が20歳での成人式を希望しています。

また、開催時期については、1月が63.4%、次に3月が24.1%という状況でございます。

昨今は、式への準備、着物の支度や美容院の予約が1年以上前から進められているため、保護者等関係者の不安や混乱を避けるためにも、できるだけ早く周知する必要があると感じています。このため、来月12月の教育委員会定例会にて議案提案し、最終的な御決定をいただき、年内には市民の方に向けて結果をお示ししたいと考えています。

なお、主管課といたしましては、社会教育委員からの御意見、また他市の状況等から見て、現行どおり20歳での成人式を1月に行うのがよいのではないかとこの意向を持っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○平谷市長 ありがとうございます。

成年の年齢が18歳に変更になったことはもう皆さん御承知と思いますが、成人式という名称につきましても、尾道の場合、前は成人の集いということでやっております、成人の集いということをきっちり成人式ということを出して儀式的行事ということに取り組むというのは、私が教育長のときに今までの文部科学省の是正指導等の中で対応をした経緯があります。

その改正に、併せて名称、あるいは年齢について御意見をお聞かせいただき、最終的には12月の教育委員会議会で決定するということですので、今日は決定事項にはなりません、大卒の意見を皆さん方に、またその最終的な決定は12月の教育委員会ということをお願いしたいと思っておりますので、今日はフランクに今までの経験で意見を言っただけであればというふうに思います。

私からは以上でございますので、豊田委員さん、いかがでしょうか。

○豊田委員 先ほど市長さんがおっしゃいましたけれども、長いこと成人式にも出ておりますが、以前はいろんな諸般の事情もありまして、成人の集いということで、また公会堂がありましたときにあそこで第何回目だったかは記憶に定かではありませんけれども、大変荒れた時期がありまして、お酒を飲酒しながらステージの上に上がって好きなことをする、そして挙げ句の果ては走って行って、そしてロビーで乱闘事件がある、全国的に吹き荒れた頃でしたので、尾道もそれに劣らずということでありましたが、何とかならないものかなと参加した者としましては心が痛むときでございました。それからあと、ベッチャー太鼓を入れることによって、先ほど市長さんがおっしゃいましたが、成人の集

いではなく、式にして、ベッチャー太鼓によって最初心を引き締めるような形で行われて、それから式典がありまして、粛々で行われたという経緯もあります。

そして、最近では、これはよかったなと思うことで、音楽コンクールなどがございまして、学生の頃に歌った歌をみんなで歌うということで中学生の頃に歌った歌を歌い、そして小学生の優秀校がプレゼントするということもありまして、非常に内容的にも、それから儀式的にも格調高く行われるようになったように記憶しております。

前段ですけれども、そういうことから考えて、私は20歳で成人式をするのがいいなあと、そして簡単に式典をきちっとして、それから後いろんなイベントを少し入れていくという形で行うのがいいなと。18歳では受験もありますし、それから就職試験もありますし、そういう中で何となく心落ち着かない状態で迎えるよりかは、ひとときたって、20歳でしつとりと迎える式にしたらいいなと思っております。

以上です。

○平谷市長 ありがとうございます。

村上委員さん、どうですか。

○村上委員 私は成人式が尾道で荒れていた頃は知らないのですが、今のうちに式典としてやるのが一番かなと思います。というのが、小・中学校、高等学校の卒業式も昔は卒業の集いとか何かそういうような感じで、式ではなくお祭りというか、そんな感じでやっていたのですが、卒業式は卒業証書授与式であり、卒業式、成人も20歳で今のようにやるのがいいのではないかと。理由は、豊田委員さんが言われたとおりで、高校3年生ということになると心が落ち着かないのではないかと思います。

ただ、1点、今度は高校3年生で18歳になるとクレジットカードも作れます、車とかバイクも買うことができます。そうなったときに、親が取り消すことはできないので、高校3年生になったときぐらいに簡単な成年の集いというか、激励するのと、自覚を持ってもらうための何か式典ができれば、簡単でいいので、何かできればいいかと思えます。

例えば、最近にもニュースにありましたように、大学生が持続化給付金の詐欺で何人か捕まっているようですが、うっかり判こを押しちゃったと、高校生で未成年だったらいいのですが、今度高校生でも駄目になり、逮捕されるようになるので、そこら辺は自覚を持たすために何かできればいいかと思っております。

○平谷市長 木曾委員は最後をお願いします。奥田委員。

○奥田教育長職務代理者 私も基本的にはもう20歳で成人式というのが一番いいと思います。理由はお二方も言われましたけども、私も参加させていただいて、成人式の様子を見ておりますと、非常に何か大人になる自覚と、そして郷土への思いといいますか、郷土を愛する心を持って式に出てくれているようで、これが本当の成人式のあるべき姿じゃないかなと思っております。そういう機会に個人で何となく感じるというだけではなくて、式典の中で同世代がもう一度集まって自分の立ち位置を見詰め直すと、それは大学へ行ったりとか、社会へ出たりとか、いろんな進路の中であると思いますけれども、そこで少し余裕を持って世の中が見えてきたときに、もう一度20歳以降の自分の人生を考えるという点では非常に大きな役割を今の尾道市の成人式は果たしているのではないかと思います。ぜひそういう財産を継続させるということが尾道のためになるのではないかなと思っております。

以上です。

○平谷市長 ありがとうございます。

それでは、木曾委員さん。

○木曾委員 私には、ちょうど今20歳と18歳の娘がいるのですが、実際自分の子供だったらと考えたときに、今の尾道市の成人式のような式典に本当に厳かな気持ちの中で出席をしてほしいという気持ち、親としての希望もあります。ここにメリットの中で書いてある、18歳だと学生服で出席が見込まれということですが、娘のことを思うと、18歳で成人式をするに当たっても振り袖を着せたいと私は思うので、これはメリットに該当しないのかなと。節目であるからこそ着物を着せたいという母親の正直な気持ちなので、それを考えたときに、受験生の18歳よりは今のまま、20歳のときに成人式をしていただくほうが経済的な負担も少し分散されることと、県外とか市外に出してしまう、我が子もこれをきっかけにいつか帰ってきてくれるかなあという思いもあるので、友達に久しぶりに会えるっていう子供たちの楽しみもあるので、できれば20歳がいいのかなと思います。

それと、尾道市の成人式にここ数年出席させていただいて、ニュースで今まで見たようなものではなく、すごくすてきですよ。豊田委員さんもおっしゃったように歌のプレゼントとか、思い出の歌を歌うというものもそうですけど、みんなが心を一つにというところが感じられるので、ああいったものを継続していただきたいなと思います。それを親として見るのもとても子供の成長が実感できてうれしいです。このままでいっていただけたらなと思います。

○平谷市長 ありがとうございます。

○佐藤教育長 基本的に年齢のところは皆さんと同じ考えです。受験生に受験のときにというのは難しいかなど。

それと、時期の部分を皆さんおっしゃってなかったのですが、帰省というような問題もありますから、やはり1月の時期がいいかなあと。特に3連休の成人式の前にしたことで、例年保護者の方とかいろんな方から御意見いただきますけど、非常にいいと、午前中に着つけとか髪を結った後に昼からも非常にいいし、前日に帰ってきて、同窓会をして、また中学校、それから帰りの日に高校とかというふうに、みんなと会えるということで非常に今の時期がいいということも聞いておりますので、そういった形で進めていただければと思います。

名称とか手法はまたいろいろ検討もしていけばいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

○平谷市長 ありがとうございます。

1月の3連休の尾道の成人式の経過で言いますと、もともとは成人の日にやっていました。それで、私が市長に就任させていただいたときの初年度はそれでいきました。先ほどのような声がありまして、3連休の中日の午後にするということになったので、髪とか着つけとかというのが少し時間的にも楽になる。それで、中日にするので、3連休の成人の式に合わせて帰ってきた前日に中学校か高校の同窓会して、式の後にはまた違う同窓会をして、そして休みなもので最後は移動になるというような3連休の使い方ということになってきた経過があるので、その辺を踏まえていただいて、年齢は今のよう意見としては20歳がいいだろうという、18歳というのは大学の入試に関わる内容がその時期ぐらいにかかるということがあるので、年齢は今のよう20歳と時期的には1月ということの基本をしながら、内容等につきましては、ずっと同じ形でいくのがいいことばかりではないと思いますので、式は式ということできちっとやる、プラス今のような趣向をどうするかというのは、成人を迎える人が実行委員会のような形で考えていくのも一つかというふうに思います。そういったことを含めて、これから調整いただいて、生涯学習課が所管課ですので、12月の教育委員会で提案をさせていただいて、議論いただいて、決定するというような流れで思っていますが、よろしいでしょうか。特に問題はないですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○平谷市長 そのようにお願いをいたします。

それでは、議題の協議事項2の項目に入りますが、コロナ禍における学校の

対応、また先ほども話をさせていただきましたが、G I G Aスクールの取組についてを皆さんと協議をしていきたいと思っておりますので、説明をお願いいたします。

○**本安教育指導課長** 市長、教育指導課長。それでは、コロナ禍における学校の対応及びG I G Aスクール尾道、仮称でございますが、の取組について説明をいたします。

まず、これまでの取組の経過です。

市内小・中学校においては、国からの緊急事態宣言、広島県からの感染拡大警戒宣言を踏まえて、4月15日から5月31日まで、市内小・中学校の一斉臨時休業を行いました。この間、市内小・中学校では少人数による分散登校を実施したり、教科ごとに教材を分担して作成し、市内共通教材を作成したりしました。また、中学校では、共通の時間割を作成し、家庭での学習について共通した取組を行いました。短時間で教育委員会と校長会が連携し、市内で共通した取組ができたことは、日頃の校長会との連携が危機管理において生かされた部分であり、保護者からの信頼につながった部分であると捉えています。

次に、6月1日からの学校再開についてです。

学校は、文部科学省が作成した学校の新しい生活様式に基づいて、ウイルスを学校に持ち込ませない、学校でクラスターを発生させない取組を徹底して行い、教育活動を展開しているところです。あわせて、今回の新型コロナウイルス感染症にかかり多くの地域や保護者の方の支えに感謝し、差別や偏見を許さない取組や健康に係る指導などにつなぎ、教育活動の充実を図っているところです。

左は、校長会へのマスク贈呈式の様子です。市内の老人会から手作りのマスクをいただきました。校長会長への贈呈式後、全ての小・中学校にマスクを配布し、思いやりの心について指導をいたしました。

右は、中学校リーダー研修会が作成した懸垂幕です。尾道商工会議所、向島市民センター、因島総合支所、瀬戸田、御調支所など、市内5か所に設置しています。この懸垂幕は、中学校の生徒会を中心とするリーダー研修会が、コロナ禍の中、自分たちに何ができるかを考え、標語を考えたものです。思いやりや配慮があるまち尾道を市民や観光客にアピールし、コロナに負けない尾道をつくろうと呼びかけています。

次に、教育活動の具体についてです。

学校の新しい生活様式に基づき、感染の心配がある教科、家庭科の調理実習では実施時期をずらすなどの工夫を、音楽の合唱では少人数になるよう人数を

調整したり、マウスシールドをつけて行ったりしています。また、話合いの工夫として、ミニホワイトボードを活用して自分の考えを示したり、大型提示装置にそれぞれの考えを提示したりして感染対策を意識した取組を行っています。

次に、学校行事等についてです。

学校行事については、中止をするもの、規模を縮小して実施するもの、内容を変更して実施するものなど、各学校が学校の実態や状況に応じて行っております。

例えば、修学旅行については、小学校は京都、奈良方面の1泊旅行から県内日帰り旅行に変更し、宮島等を中心に実施しています。県内日帰り旅行に変更したことで発生する関西方面の宿泊代金のキャンセル料については、国内移動が禁止されておらず、市教育委員会、学校が主体となって変更を決定したことから、市の負担としています。中学校については、修学旅行は来年度1学期をめどに時期をスライドしているところです。

左は、因北小学校の校舎の様子です。密にならないよう、水飲み場や廊下などに足形マークをつけるなど、工夫しています。

右は、高須小学校の学習発表会を分散発表会にし、コロナ対策を行うようにした学校だよりの一部です。大規模校においても学年を分散したり、時間制の入替えにしたりするなどして対策を行っています。

続けて、左は、御調中学校がコロナウイルス感染症対策を行い実施した運動会の様子です。例年、御調高校との合同運動会を実施していますが、中学校単独で時間を短くし、プログラムの内容を生徒も一緒に考えながら実施を行っています。

右側は、御調中央小学校が実施した福山市内海町で行った修学旅行の様子です。漁業体験と併せて、海底ごみの収集の様子から環境問題を考える内容に変更するなどして、学習の場としています。

このように、各学校で実態や状況を踏まえ、学校行事を実施しているところです。

さて、御承知のとおり、令和5年度までに整備する予定であった国のGIGAスクール構想が、コロナ禍のために前倒しになりました。尾道市においても令和5年度までに整備する予定であった児童・生徒1人1台タブレット端末をインターネット環境である校内LANと合わせて今年度中に整備するよう、現在急ピッチで取り組んでいます。現在、中学校生徒用のタブレット端末約3,000台は、11月現在、既に整備済みであり、12月に校内LAN整備ができるま

で、各中学校では無線アクセスポイントを使って授業を始めています。

また、小学校においては、先行導入された各学校1クラス分のタブレットを活用し、事例を蓄積しています。今後、約6,200台を2月末までに整備し、全ての児童に1人1台のタブレット端末を渡すことができます。そして、今後、コロナの感染拡大で臨時休業になった際には、これらのタブレットを活用して学びの保障を行う予定です。

尾道市教育委員会としては、今後、GIGAスクール尾道をこの全体構想図のイメージで進めてまいります。

具体的には、タブレット端末を活用しながら、個別最適化された学びを実現し、一人一人の個人に合った学びや友達との共同的な学びを通して尾道教育みらいプラン2で目指す夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く子供の育成を目指して取り組みます。

それでは、具体的にどのように活用しているのかということについて、ICTを活用した教育活動の充実に取り組んでいる事例を紹介します。

これは、高西中学校2年生理科の授業です。生徒の考えを大型モニターに投影して共有し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を視覚的に気づかせ、表現させる授業です。モニターで視覚的に示すことで全員が具体的なイメージを共有することができ、そこからそれぞれが物質の変化や量的な関係に気づくことができました。

これは、高見小学校5年生の理科、台風と気象情報の授業です。タブレット端末を活用して、台風の発生や進路が分かる資料を一人一人の児童がそれぞれのやり方で収集し、収集した資料をお互いに見合いながら、台風が移動する様子やそれに伴って気象が変化していく様子を実感的に学習しています。自分の考えで資料を集めることで意欲的に学習することができました。

これは、浦崎小学校3年、総合的な学習におけるプログラミングの授業です。今年度から必須となったプログラミングの授業を行っている様子です。スクラッチというプログラミングソフトを活用し、文字や動き、音などのプログラムを入力し、失敗と挑戦を繰り返しながら目標を達成しています。試行錯誤し、何度も挑戦した分、達成したときの子供たちの喜びは大きく、学習意欲を高めながら、プログラミング的思考や情報活用能力を育成しています。

教職員研修の様子も大きく変わってまいりました。小学校の教育研究会理科部会では、タブレットを活用した授業実践について、それぞれの取組を持ち寄り交流しました。大型提示装置を活用しながら、授業でデジタル図鑑を使っている実践等について情報の交流を行っています。さらに、複数の学校同士をZ

o o mでつなぎ、研修や授業の担当者が学校にしながら協議を行うことで、出張に伴う移動の時間の短縮が図られている例もございます。

さらに、教育委員会の取組です。

従来は紙で実施し、各学校で集約を行っていたアンケートはタブレット端末を用いて実施しています。これは学びの変革の取組に係る児童・生徒アンケートについてです。現在、学校に通知を発出し、12月中に各小・中学校で取り組むよう予定をしています。これによって、児童・生徒約9,000人のアンケートが瞬時に集約され、学校別、市内合計として反映されるようになっていきます。従来、学校の教職員が行っていた自校分を集約し、教育委員会へ報告する手間や時間が一切なくなりました。これらは教員の働き方改革にもつながる好事例であると考えています。

次に、eライブラリーを活用し、個々の児童・生徒一人一人に合った学習を提供する振り返り学習のイメージについて説明をいたします。

尾道市では、eライブラリーというソフトを導入しており、全てのタブレット端末からeライブラリーにアクセスして、単元末テストやドリル学習が行えるようになっていきます。これまでは各教科の単元の学習を終われば単元テストを行い、図の赤の矢印のように次の単元へ進んでいました。eライブラリーを活用することで、単元テストを実施し、理解できた児童・生徒は発展学習へ、理解の不十分な児童・生徒はもう一度学習を定着するためのドリルで、さらにこれまでの学習が不十分な児童・生徒はさらに学年を戻ってeライブラリーを活用した補充の学習ができるようになります。教師は、児童・生徒の状況について、eライブラリーを通して把握し、知識の定着のための補充指導や振り返り学習をコーディネートしていきます。このように、これまでの学習を児童・生徒一人一人に応じた適切な学びを行わせることで、低学年からの基礎学力をしっかりと定着をさせ、学力向上を図ってまいります。

さらに、これまでできなかった取組もできるようになりました。これは家庭と学校とをつなぐICTの活用についてです。

因島南中では、PTAの協力を得て、8月26日にZ o o mによる参観日を設定し、授業の様子を学校に来ていただけない保護者に配信しました。ウェブにより約50人の保護者に授業を見ていただくことができたということでございます。11月2日には、道徳の授業をZ o o mで配信することにも取り組みました。11月7日に行いました因島南中の学習発表会もZ o o mによる配信を行い、地元の広報紙で紹介をされています。

続いて、高西中の実践です。去る11月13日に、株式会社キャリアリンクが社

会貢献活動の一環として行った職業人へのインタビュー活動を目的としたオンライン授業に参加し、全国の中学生とともに企業の担当者から仕事について学ぶ遠隔授業を行いました。今年度、職場体験学習は中止をせざるを得ませんでしたが、日本を代表する企業の方からの話を聞くことで、例年とは違ったキャリア教育の取組ができました。

これは、これまでも行われている日比崎小学校の台湾の小学校との交流の様子です。昨年度、コロナによる外国への渡航制限があった中で、ICTを使う形を充実させていけば、外国へ行くことはできなくても、国際交流を行うこと、国際理解教育を進めることができます。今後、教育会館にいるALTと学校をウェブでつないで会話練習をするなど、ICTを活用した外国語教育の充実も研究していきます。

最後に、先日、11月18日に因北中学校で行われたタブレット端末を活用した英語の授業がテレビ新広島の夕方のニュースで紹介された場面を紹介します。

デジタル化の推進は、学校教育の在り方を大きく変えていきます。今後、管理職や教務主任などと目指す姿を共有するとともに、研究主任を中心にタブレットを使って授業をどう変えていくのかの協議をし、研修を通して全ての教員がタブレットを活用できるようにするなど、市全体で組織的な取組を行い、その効果を測定していきます。固定観念にとらわれず、より早く、より効果的なデジタル機器の活用を尾道市全体で進めることにより、個別最適化された学びを実現し、一人一人の児童や生徒が将来の夢を実現し、尾道で学んでよかったと思えるよう取組を進めてまいります。

以上でございます。

○平谷市長 ありがとうございます。

パワーポイントで説明をいただいたので、非常に分かりやすかったように思います。先ほど話をさせていただきましたが、コロナウイルス感染症の中での臨時休業での対応ということで、保護者の方も初めてのことであり、そういう状況の中で学校の皆さんが対応いただきながら取り組んでいったということで、心からお礼を申し上げたいと思います。

また、学校再開後の対応、今のように新型コロナウイルス感染症が拡大というような中でも、これからも意識を高く持ってみんなで取り組んでいくということが非常に大切だというふうに思います。

また、GIGAスクール構想について説明がございましたが、これは非常に不安な面を抱えてスタートしているというのも事実でございます。ついこの間も話をさせていただいたNTTの関係者の方ですけど、一番の課題は若い先生

とかは非常にスムーズにいけている面があるのだけど、どちらかというと年齢の高い層、逆に管理職の層とかがなかなか分かってほしいというか、新しいことにチャレンジしていくって、新しい何かをするのではなくて、部下にやるとけとよくある構図があるので、その辺が課題ですよというようなことがあります。逆にアナログだからと言ったら済むような時代ではなくなっているところもあるので、そういう意味では一体感を持っての指導という話になると、理解をしながらサポートしていくということが大切ではないのかなと思うことがございます。G I G Aスクールということで国を挙げての取組になっていますので、逆に自治体ごとの差が出るのではないかなという一方不安もあります。そういう中を教育委員会として指導力を発揮していくということも大きな役割になるのではないかと思います。

今尾道の行政のほうもデジタルファーストということで取組を進めているわけですけど、これは1つ大きなポイントがございまして、うちの職員に内製ができる職員がいるという、業者に頼むとその都度経費が伴ってくるという話、多分G I G Aスクールもそれに伴うソフトであるのかなんとかというのはビジネスになるので、そこは非常に関わりが出てくるのですが、そのことができるような職員の人材育成というのが非常に重要になってくると思うのですが、うちのR P Aは一切業者が入らずに全部職員で取組をしているというのがほかの町とは全く違う取組になっています。その仕組みづくりで人材育成を育てていくというのは市としても課題だと思いますが、多分学校の現場においても同じ課題に直面するのだろうというように思いますが、先生方が意欲的に持って研修をしていき、新しいものを生み出すということが必要なのかなと思うことがあります。

ハードについては、先ほど話をさせていただくように光ファイバーの整備であるとか、1人1台のタブレットであるとかという、そういったものは順次整備していくと思いますが、それを使っていくということがこれから大きな課題だと思うことがございますが、今各学校で取組をされている事例を見ると、非常に頑張っているなということも強く感じます。今までの内容の中で御意見や御質問がある方は挙手をして、意見交換ですので、お願いをしたいと思います。

奥田委員さん。

○奥田教育長職務代理者 このG I G Aスクールの全体の説明をお聞きして、やっと全体像が見えた感じがするのですけれども、素晴らしい可能性があるシステムだなあというふうに思いました。

特に、例えば学習面でいきますと、eライブラリーですか、こういう今までにない、自分で自分の進度に合わせて確認できる、教科書はいろいろ違うのでしょうか、ベーシックな問いかけがなされるということでしょうかから、こういうのをどういうふうに使いなすか、これ一つ使いなすだけでも大分違うと思いますし、それから英語のALTさんが画面に出て授業をされると、今までだったら行くのに時間がかかったりとか、そういうロスがなくて、今まで例えば10校を見れたものが、15校分とか、20校分、倍ぐらいが学校に行ったのと同じぐらいの効果も出るというような、使いなせば使いなすほど尾道市の教育の力がアップすると感じました。

その中で、最後に私が思ったのですが、こういう新しいシステムをしっかりと使いなそうと思った場合、教育委員会が音頭を取られると思いますが、それ用の、GIGAスクールをより進めるための人というのですかね、それは従来の枠組みの中で担当の方がされるという発想になるのか、私はもうちょっと、先ほど言いましたようにこれだけのいろんな要素があって、もっともっとどんどん進めるためには本当に専門的なそれを中心にやる方がいけばもっと進むのではないかなと感じました。

○平谷市長 今、環境整備等は尾道市にスマートシティ担当参事という、教育委員会事務局にいた戸成君が今のように教育委員会事務局と連携しながら一緒になって取組をさせてもらっています。それと合わせて、整備も含めて、NTTさんをお願いをしながら取組をするということになっていると思います。

それから、ICT支援員とか国も予算をつけましたとか、いろんなことを言いますが、はっきり言って人がいないというような状況があるので、それは広島県の教育長が公言して当てにしないでくださいというようなことを言われている中に今のような取組をしていこうとしているので、市としては教育委員会と連携させてもらって取組をしていこうと。今のように子供が不利益を得ないような尾道市と教育委員会と連動して取り組むというようなことだと思いません。

ただ、操作は多分先生方よりも子供のほうが早いですよ。持って帰らすのを自由にしようというのと、子供はもう帰った間にどんどんやっていくようなので、そのあたりを学校の先生方とかがどのように受け止めて、教育委員会としてどのように受け止めて対応していくかというのが大きな課題になるのではないかなと思っています。

子供は小学校に上がる前から、幼稚園のときからスマホで、生意気ですけど、こうしよりますから、だからそれを小学校の1年生で使った子たちが、小

学校6年生になり、中学校3年生になったときはもうとんでもないぐらいの勢いで日常化されてきているというふうになるので、今は導入のときにいろいろなハードルがあると思いますけど、そういうようにスピード感を持っていくのだらうと思います。そのときに、指導する側がスピードについていけるのかと、逆に管理職のほうはスピード感を持っているのかというようなところに課題があるような気がします。

先ほどのRPAとかというような形でロボティックとかというような話になりながら、実務をやっていた、コンピューターにさせながら一気に進めていくような話ですけど、そういうソフトを使ってやるという話のときに、それを職員の側が中で自分たちに内製して仕組みをつくり上げていく仕組みになると、それをまた伝えていくような話になるといいのですが、それを業者に入れるとその都度お金がかかってくるという、ビジネスでそこはしょうがないところはありますが、それが職員の中で意欲的にできるということになればと思うのですけど、非常に可能性がある仕組みだと思います。

豊田委員さん、いかがでしょうか。

○**豊田委員** 現場にいたらこれは大変だなと思いました。

先日、三幸小学校へ算数の授業を見に行かせていただいたときに、5年生でプログラミングの授業をしていました、全員がタブレットを持って。子供たちはどの子も結構使いこなしているのですよね。指導される先生は大変若い先生で、新任4年目が済んで来られた方でしたけれども、本当にあっという間に子供たちは先生の指示の下にさっさささと主体的に活動していました。先ほど見せていただいた中でも、それぞれの学校の取組が非常に先進的に取り組んでいらっしゃるということを感じました。

1つ支援員のことが出ましたけれども、学校によっては何人か堪能な方が来られて、しっかり前に進めていかれるのだらうと思いますが、学校によって差ができないように研修も組んでおられるようすけれども、ぜひそういう担い手になる人を育てるということも大きな課題かなと思うのですけれども、それによって尾道市の学力がうんとうんと高くなっていけばいいなあと期待しながら見せていただきました。

子供たちは結構抵抗なくやるなということを私も目の前で見せていただいたので、ぜひこれは進めていただきたいなあと。先生方も楽しんでやれるように、そういう意欲的なところが出てくるともっといいのではないかと。

先ほど市長さんがおっしゃったのですが、市の中でそういう人たちを育てているのだというふうなこと。

○平谷市長 育てて、今はそのことをコントロールできる職員がいる。その職員の下に今のように展開をしていくようになっているけど、それに続いてくる人材育成をいかに育てていくのかというのが物すごく大きな課題なので、そのパソコンが堪能な中じゃあ、学校の指導にどう役立てていく指導方法が言われるわけでしょ。だから、例えば今のうちの職員でもワードで文書を打てといたら物すごく速く、もう見ずにブラインドタッチでどつとどつとできる職員がいるのですが、それだけでは今の仕事にならないし、指導にならない。そのあたりを意欲的に育てていく、気持ちを持っていくような環境づくりをしてやらないといけないというのは思いますよね、難しいと思いますけどね。

○豊田委員 各学校の人材育成をぜひしていただきたいと思います。

以上です。

○平谷市長 そこは、管理職がきちんとそういう方向性を持って教育委員会と連携していくということが一番大切ではないかなと思うけど、その管理職がよそを向いていて、やっつけと言っていたら課題が分からないところがある。そういうことを指摘される方がおられるので、みんなが、校長会も含めて、教頭会も含めてというようなことになると思うのですよね。例えば、養護教諭部会なら養護教諭部会としてこれをどのように使っていこうとかというように、それぞれ課題をきちっと提示しながら進めていくということが要るのではないかと思います。

それから、この間、尾道北へ行って話をさせてもらったときに、北高の1年生は全員タブレットを持って講演を聞くのですよ。タブレットを持って聞いて、タブレットにどの言葉が気になったとか、どういう点が聞きたいかとかを一気に打ってきて、私はそういう例は初めてでした。印象になる言葉の一つに、ITというのはインターネットでつながっている世界がこの中にあると思わないといけないのだけど、その世界がこの中にあるという、世界地図がこのスマホの中にあるとか、インターネットにあるという言葉が新鮮だったという、意外にインターネットで、タブレットで言うと目先のことを何とか反復練習とかというのだけど、もっとグローバルにその環境は世界とつなげることができるツールの一つだみたいなことはこれからも要るのかな。ただ、ゲームのために使えるとか、何か調べ学習につながるとかということ以外に、高校の1年生に出会って話したときにその言葉が新鮮だったというのはちょっと意外だったので、もっと国際化の中にそれがあるというようなことは感じるような指導も要るのかなあと、学年によって違うと思いますけど。

村上委員さん、いかがでしょうか。

○村上委員　これが普及しますと、子供たちにとっては劇的に勉強スタイルが変わるのではないかなと、だから一刻も早く、一分一秒も早くしていただきたい。というのが、今までは教えられる、それに基づいて勉強していくようなスタイルだったのですが、パソコンとかタブレットになると、自律的で能動的な学習ができるのではないかと。また、先ほど市長さんが言われたように世界につながっていますから、そこからいろんな情報を得て自分のものにしていける、そういうのが将来生きていく力になるのではないかなあと。ただ教えられて覚えたよというのではなくて、やはりそれが大事なのではないかと思います。

それと、eライブラリーですが、例えばタブレットを家庭に持って帰ることができるのであれば、いつでもどこでも24時間予習もできる、復習もできる、だから勉強したい子は幾らでもできるというような環境ができると、例えば病気で休んだにしても、保健室登校している子でもずっと勉強できるので、学力に遜色がないようになるのではないかと思います。

それと、因南中学校でこの前文化祭に行かせていただいて、Zoomでの参観日を見せていただきました。まだ完全なものではなく、途切れ途切れになって音声が悪いときもあったのですが、例えば遠くのおじいちゃんがこれ見ているのですよということもありますし、家庭で今日は行けないけどというようなお母さんも見ることができるので、皆さんが学校のほうを向いてくれると、そういうことでも一つの大きな力になるのではないかと思います。

それと、浦崎小学校も行ってみましたが、子供たちが全部タブレットを持っておりまして、大きいモニターに全員のタブレットの中身が映りました。ですから、全然やってない子はすぐばれちゃうということになって、寝ることができない、だから落ちこぼれがない、全員が全体的に学力も上がっていくのではないかなと。だから、非常にいいシステムなので、市長さん、お金はかかるでしょうけど、ぜひ早くよろしくお願ひしたいと思います。

○平谷市長　整備のほうは、先ほど話があったように、小学校も6,200台、2月末までには必ず入ります。小学校は、今はクラスに1台入っているのかな。中学校はもう1人1台になっている。2月末までにはそろそろという。来年度中には光ファイバー網が全市域、多分広島県内全部整うというように思いますけど、これも新型コロナウイルス感染症の関係で総務省の取組ということになっています。国挙げての取組なので、それを使った形がこれからになってきます。

それから1つ、日比崎小学校の子供たちが、今台湾の嘉義市と尾道市が友好都市になっているという部分は、これについては教育長さんどうだろう、学校

が今のようにインターネットでつながった環境の中で、海外の子供たちとやり取りするということを、また教育委員会で議論いただければいいのだろうと思いますが、そういった交流する相手先を見つけて、姉妹校ということではなくても、そういったできる視点はどのように。時差が1時間しかないから、台湾とは。

○佐藤教育長 基本的にこれは日比崎小学校だけではなくて、市内全ての学校とはなっていないけれども、事務局のほうが詳しいと思いますが、多分両手ぐらゐの学校だったと記憶していますけれども、それぐらゐは手を挙げながら台湾の嘉義だけではなく、新北とかの学校も合わせて、その交流はS k y p eを使いながらやっていると、今S k y p eよりもいいのが出ているのかも分かりませんが、当初の段階ではそういうふうなことで聞いています。

私自身が今までの関係の中で気になっておりますのは、やはり通信料の部分ですね。機器は入ります。そうしたときに、今単年で行政が通信料を見るとすると1億円ぐらいのお金が必要だということも言われておりまして、今は保護者負担でお願いしたいという考え方でしとりますけれども、今後、容量の問題とか、さっき村上委員さんからもう四六時中できるという、確かにそういうことになるのですけれども、それに伴う通信料のことをどうしていくか、また機器の持ち帰りに当たって、貸与ですから壊さないようにするマニュアルを早い時期につくっていかなくてはいけないというのがそういった機器の関係で言えば課題になっているという状況です。

○平谷市長 通信に関わる経費については、尾道だけではなくて全国的な課題になってくると思うので、整理をして、国に対して支援を求めていくという、それは次の段階だなあと考えています。県は、逆に言うとタブレットを購入させているでしょ。

○佐藤教育長 個人。

○平谷市長 個人で、この辺があまりおもしろくない。そういうのがあるのですが、さっきの通信料の問題は全部のことになるので、それはまた連携して、市長会も含めて取り組む大きな課題だというふうに思います。

ただ、海外の子供たちと交流をしていくというのは早い段階からやるというような話で、今実際にはS k y p eを使って以前からやってくるというのが、これを含めて次年度に向けてどうするかというのを、校長会とも話をしながら検討していただければいい課題かなあとと思いますよね。

○佐藤教育長 それは校長会のほうにも情報提供しながら、効果が出るような形にしていきたいと思います。

○平谷市長 そうですね。

それでは、木曾委員さん。

○木曾委員 先ほどの映像の中で、因北中学校のニュースの紹介映像があったのですが、その中で男の子がすごい笑顔で、すごく楽しいって言っていたのが印象的で、本来学びは、そうはないといけないと思います。楽しいと思って、楽しいと思うからこそ学べますし、吸収できるのだと思います。それが全生徒、全児童がそうになってほしいというのが理想です。なかなかそれができないという現実もあるのですが、ああやって楽しいと思える学習環境をつくっていただけたらと思います。

それと、市長が先ほどおっしゃった世界とつながっている、もちろん世界とつながっているのですが、尾道市内も全部がつながっているということなので、先生方の教育研究っていうものも、垣根を越えてどんどんああいうものを活用して、全てやってほしいです。人材育成というところでも機械に強い先生が各学校1人ぐらいいらっしゃる、いない学校でも市内の先生でチームをつくっていただいて、いつでもサポートできるよっていう体制をつくっていただけたら、もっともっと使いやすくなるのかな。苦手な先生も困ったときにその先生、どこかそのチームの誰かに聞けばいいとか、そういった環境をつくっていただけると、私も決して機械が得意なわけではないので、教えてもらえる人がいるとすごく助かります。

○平谷市長 教え合う環境は大切だと思うのですよね。デジタル化という話のときに、今課長からアンケートを取ってというのがありましたよね。大切なことは、先生らは勉強したりする時間をどうするかというのがあるので、そういった効率的なことをどうするかというのを学校運営上には出てくると思うのですよ。

今、国勢調査をやらせてもらっていますが、これほどアナログというのはいない。本当にいい加減にしろというぐらい。全部紙1枚ずつに書いて、それを1人ずつペーパーで書いて、時間がどれだけかかってというような話ですけど、それが極端に言うと今のデジタル化してやればもう一瞬に全部集計が終わるのですが、それを、集計全部を手書きでさせる。だから、国勢調査の話は、これから私たちの仕事で言うところのこういった内容のものは今のデジタル庁も含めて整理して、それに何人職員が取られてというような話になるので、多分学校の業務の中も今のGIGAスクールの中でそういった部分は校務上のいろいろな課題の部分も少し整理していくということも提示されているように思うのです。そうしないと、多分いろんなアンケートとか調査物とかがいっぱい来たり

するときには、これで送って、それで入れてもらえれば集計は事務局でできていますので、それを県に送ればいいとかという、そういうような使い方が、事務局の中でもしていくことも要るのだらうと思うのです。そういうチームをつくって先生方のほうに行けるような、そういった文化をつくっていかんといけんだらうなあというように思いますね。

尾道は、今幸いにして県立の校長先生方というので、御調は中高連携型ですよ、瀬戸田はもう小・中・高が一緒になっているでしょ、因島は因島高校に倉田校長がおられるので、それぞれ中高の連携ができています。こちらの今の尾道側が尾北、尾東、尾商が1年前からパソコンを導入されて、連携されているので、今のように教育委員会事務局もこういった取組を連携させているというのを、そういった連携ができる環境にできてきている。尾道高校はその中で中高があるので、尾道、向東、向島中もそういったこちら側の枠の中で連携してという、それが新しい尾道モデルができていけばいいなあというような思いがある。不安もありますけど、楽しみがあるので、これをいかに生かしていくか。

奥田委員さん、補足してもらっても。

○奥田教育長職務代理者 先ほどのチームということで行くと、市長さん言われたように小・中連携というのがキーワードになるような気がしています。今までですと地域が近いからということで連携すべきみたいなものが先に来ましたが、結構中学校は教員も多いし、小学校は小規模で、コンピューターが苦手な職員が多いという場合もあるかも分かりませんが、グループでまとまれば、自然発生的に必要な迫られて小・中連携というのが非常にスムーズに行くのではないかなと思います。そのあたりが一つのキーになって、そこでまだ十分カバーできないようであれば、また全体的なフォローということもあるかも分かりませんが、そういう形が自然な形でできればさらにまとまり、教育力がアップするのではないかと思います。

あと、このGIGAスクールによって興味ある生徒はどんどん先へ進めるというメリットがあると思います。今まではどちらかというと皆授業でも足並みをそろえて、発展もこの辺までというようなところがありましたので、今度からはその分野を学んでみたいという生徒はどんどん先へ先へと進めるようなそういうレベルのものを、今はeライブラリーですけど、そういう出来合いから、さらに今度はそのを超えるようなところまで、そういう今ITで世界がどんどん進んでいますが、その中で日本がずうっとITとかは、人工知能とかが遅れていると言われている。遅れているということは世界で進んで興味があ

る人がすごく突き抜けるような研究をどんどんしていつている環境があるというところですね。そういうところが今まで日本の教育の中にはなかったもので、これはいいチャンスだと思います。専門の分野をより関心があって高めていきたいという生徒がどんどん学べるような、そういう教育環境ができれば、また大きく変わるのではないかなと思います。そういう意味で、基礎基本の徹底というのは当然ですけれども、さらに発展的な生徒が学べるような環境をつくってやるというのも、これ大きなチャンスじゃないかなと思いました。

以上です。

○平谷市長 学校の文化で気をつけたい、教育委員会の事務局も思っていることは、小学校は先生方が全科なので、全部の教科を教えるので意外にまとまります。中学校は教科担任制なので、教科によって担任になっているところが問題ですね。得意とするところでやっている先生もいれば、あれはあれがしとるとか、私はアナログだからこれでいいよと言って、その辺のところは恐らく新しい文化を切り開いてく課題の一つではないかなという、これもN T Tの関係者の人が、研修してみてもやはり小学校と中学校には温度差があるというのを感じているところです。そういうところは杉原部長、ありますよね。うなずいておられますが。だから、そういうところを新しい流れに従っていくということもどうするかというのが一つのテーマなのかなと思います。

尾道学園はどんなことをやられているのでしょうか。

○豊田委員 1つは、先ほどのG I G Aスクールではありませんが、これが少し遅れているのではないかなとこの前指摘をして、特に数学の先生たちに発破をかけたのですが、多分これから先はそういう形でやられるだろうと思います。

何年前前にプロジェクターを全部の学級に入れました。そのときに、最初の頃、ほとんど先生方は使ってなかったのですけれども、回っているうちに、最近ではほとんどの教科で全部使っていて、非常に効率的だというふうなことの感想を言っています。ですから、このG I G Aスクールも学校の体制の中でそれが行われ出したら、きっといろんな先生方が前向きに捉えてやられるのではないかなと思います。

学園とは全然関係なく、1つ主体的で対話的な深い学びということが文部科学省から言われていますけれども、その学びにそれぞれ尾道の小・中学校も近づいていつているのだらうと思いますが、特に主体的という面で今の学校の授業や学びが本当に主体的に行われているのかなということ、これG I G Aスクールの推進と同時に日常的な授業をもう少し考えていくことも必要じゃないかなということ強く思います。

以上です。

○**平谷市長** 今私らも県の教育委員会の教育長の話を書く機会があったときも、言われている内容がICTを使った内容のことしか言われぬ。だから、逆に学び方の手法としてこれがあると。だから、そのことをもっと知徳体というような知の部分の学び方の一つとしてのツールとしてはあるけど、未来に向かってグローバルの世界を生き抜いていく手法はそれだけでは身につかないよという話をきっちりとおかないと、体力もそうだし、徳育もそうだしというような、それから何か昔は美育とかと言われる話もありましたが、そういうものの中の一つだという、学習の学び方の手法の一つだという話をしっかりしないと、それだけの議論になっていくと少し違ってくるということを思うことはある。

つい最近のニュースで話題ですけど、これは早稲田と慶応の早慶戦のラグビーがございまして、その慶応に2人尾道高校の生徒が入ってやっている。そして早稲田大学の14番の槇君というのがいて、スポーツでしっかり名前を出していただくということもそうだけど、そういうところで活躍できる目標を持っていく、例えば尾道市立大学の小さな大学が全日本で優勝してチャンピオンになったという、そういった側面も大切な教育の一環なので、そういうこともしっかり捉えていただきたいと思います。ややもするとGIGAスクール、GIGAスクールということばかりがあるような、そういうことを感じることもございます。

ほかに木曾さん、なにかございせんか。

○**木曾委員** 尾道で学んだ子たち、育った子たちが、やはり全国で活躍する姿というのはとてもうれしいです。自分ではないですけど、誇りに思えます。それが本当に近い友達とかだとなおさらだと思うので、そういう自分ではないほかの人の活躍を見て喜ぶとか、そういう感性も育ててもらえたらなとは思っています。アナログのよさももちろんあるので、アナログも大切にしながら、GIGAスクールはGIGAスクールで発展してもらいたいなというのが希望です。

○**豊田委員** 先日、市内の中学生の吹奏楽のコンサートがあつて、行かせていただいたのですが、コロナの非常に毎日鬱々とした生活の中で子供たちが喜々として演奏していました。ああいう場をつくってくださった市長さん、教育長さんの心遣いに非常に感謝したいなと思いました。

その中で、子供たちがナレーションで幾つかの学校が言ったのですが、これも主体的に言ったのだらうと思うのですが、こういう機会を与えてくだ

さって非常に感謝していますということをどの学校も言っていました。だから、先ほど木曾さんがおっしゃいましたが、そういう心を育てるということも、行事を通してそういう心を育てるということもあります。それから授業の中で、道徳の授業の中でも、普通の授業の中でも心を育てるということは十分にできると思うのですが、そういう面も尾道はいろいろ今まで取組を市全体でしてきてくださっているのです、そういう子供たちが多く育っていくだろうと非常に期待をしています。先日の音楽のときには本当にうれしそうに、何にも今まで演奏の機会が今年はなかったのでもっともよかったですという、感謝したいですって言っていた素直な気持ちを私もとってもうれしく思ったのですけれども、そういう場もこれからコロナが終わればまたできますけれども、これも今までの取組の積み重ねなのだということを強く思いました。

以上です。

○平谷市長 この間、青少年健全育成大会というのが毎年ありまして、小学校1校、中学校1校にアトラクションでやっていただいた。コロナ禍ということで、表彰は個々でさせていただいて、栗原小学校の吹奏楽部と吉和中学校の吉中太鼓だけの発表会は別途にしたのですが、それも同じように本当に子供たちが一生懸命演奏もするし、太鼓もたたくということで、教育委員会事務局におられた瀬戸校長が本当にありがとうございましたということでした。発表する場がなく、子供たちも最後だということで、そういう場は大人の側がつくってやる必要があるだということを改めて思った次第でございます。すてきな取組を生涯学習課の内海課長さん、ありがとうございました。

○内海生涯学習課長 はい。

○平谷市長 皆さんが言うようなことはあったと思いますけど、多分これからコロナ禍ということの中で続いてくと思うのですが、その中でもできるようなことは、子供の成長につながるようなことを応援できたらと思います。

もう一つは、これは子供の成長とは別の話となりますけど、最近コロナ禍ということの中と第2の人生ということで尾道に移住される方が増えています。とりわけ広島県の移住のポイントになる取組を因島出身の酒井裕次君が積極的にされていて、そのことが広島県の移住希望の全国の2位の位置づけになっているということです。第2の人生をとということでテレビとかのメディアで紹介された尾道ブルワリーというクラフトビールを作る御夫婦が仕事をやめられて、体調のこともあるしこのままでどうするかということで、移住センターで酒井君と出会って、それでクラフトビールをやりたいという話の中で、たまたま行った先が広島で、酒井君に出会ったということです。尾道に来て、この町

の人の優しさに触れて、この場所でやりたいというような話になっているので、そういう人の優しさが尾道に移住を決めましたという話です。

それから、移住者の多くは車を持ってない人が多いですよ。車を持ってなくても生活ができるのが尾道の魅力だということです。だから、向島に住む、仕事はその商店街に来る、行き来は途中で自転車があればできるという、それが町のコンパクトさという。今日会った女の子も神奈川から移住してきているのですが、この子も三原の佐木島とかの関わりがあって行ったりするのだけど、佐木島とかは車がないと駄目ですね。それで、今住んでいるのは尾道で、その子たちも尾道の人ぬくもりとか、この町のコンパクトさで尾道に移住を選択したという、そういう違う角度の話も子供らに必要なのかなと思いました。気分が全部グローバルを向いて外ばかりを見ていけない。

昨日もあるところで話をしたのですが、都市の魅力度ランキングで全国の50番の中に中四国で3つの市しか入っていない。尾道は入っていますよ、あとの2つの市はどこでしょうか。倉敷が入っていますが、もう一つは。

○佐藤教育長 萩だったですか。

○平谷市長 島根県出雲市です。その魅力度ランキングで尾道が全国のランキング31番で、その上に倉敷がいて、下に出雲がありますけど、その尾道より下に新宿、渋谷があります。だから、向こうへ向いていっても魅力はないのだよと、そういう情報とかも話もしてというような話です。

それともう一つは、話題の提供ですが、尾道で古川さんという女性がミスユニバースでトップ10に入りました。そのトップ10に入ってその大会に行ったときに、お母さんが一緒についていかれて、どこから来られたのですかと聞かれるので、尾道ですと伝えたらほとんどのタクシーの運転手さんがええ町ですねえと言ってきて、尾道の知名度はすごいねえと実感して帰ってこられたというのがあるので、そういうことも教育委員会の事務局は学校に教えてやって、住んでいることに誇りを持つ、それから住んでいる人が優しい人がたくさんいるので見守られているのだよというようなことを話ししてやってほしいなあと思います。

それともう一つは、尾道市が1人1万円、先ほど言われていた政策的に思い切った政策をしている中で、日頃歩くサンドバッグと言われている私が、市民の皆様今回だけはありがとうと言われる。ありがとうという言葉は本当に言われるとうれしいものだなあと思うので、素直にありがとうと言える子供を育てるとか、尾道の子はこうなんだと言えるような、そういうなことが来年度にGIGAスクールもやりながらなんだけど、心が豊かであるとか、素直に、何

かすねるのではなくてというように、それからコロナ禍の中で誹謗中傷とかそういうことがないような子供の像みたいなものをぜひ、夢と志もいいけど、それ以外に何かそういうような子供が育っていくのにはこういったことを身につけようとか、こういったことはしないような子供もいいのではないかなあとと思いますね。ありがとうと言われて、ありがとうと言いなさいということは言っていました、言われたことがあまりなかったもので、そういうのもぜひ子供たちに身につけさせてやりたいなあとというふうに思います。

横断歩道に車で止まったときに、子供が帽子取ってありがとうと言われたら、止まってよかったなあとと思うと同じようなことだと思いますけどね。幾つになってもありがとう言われたらうれしいですよ。家で奥さんに言われることがないもので。言っていますか。

○木曾委員 言っていません。

○平谷市長 その辺の話もまた参考にしていただいて、ほかにございませんか。
はい、どうぞ。

○奥田教育長職務代理者 尾道の魅力は今市長さんが語っていただいたとおりだと思います。私も最近職場で研修会をしまして、講師の方が言われたことが非常に印象に残りまして、この仕事をするので一番大切なことは何かというので、もう1つだけ、人間が好きでないといけないということを言われた。ああ、なるほどなあと、大切な言葉だなあと。人間が好きな人にならないといけない、これはグローバルでも全て何でも通じる。人間同士が好きになる、人間が好きになる、相手を好きになるという、そういう人間性を持った子供、大人に育っていかなければいけないというのを改めて思いました。今日もいろいろ議論が出ましたけど、尾道の子供たちはそういう人間を愛する子供であってほしいし、またそういういろんな新しい知識についてもどんどん学んでほしいと思いますけど、ベースのところは人間が好きだ、友達が好きだという、家族が好きだという、そんな心を持った子供であってほしいとその研修を受けながら私も思いました。

○平谷市長 奥田委員さんだから思われることがあるのだらうと思いますけど、私は嫌いな人もいるのですけど、でもそういう意味で逆に言うと人を好きになるような性格を持った子に育てていくという。

○佐藤教育長 そうなればいじめとかも。

○奥田教育長職務代理者 そうですね、全てがね。

○平谷市長 弱い子がいたら助けに行くとか、そういう素朴な行動規範みたいなものを身につけるようなものを、ぜひ教育委員会として無理のない範囲でつく

ってやって、それを学校の子供たちの教育の日常規範にという。以前は時を守り、場を清め、礼を正すとか、挨拶、名前を呼ばれたら「はい」と返事をするとか、立ったら椅子を入れるとか、靴はそろえるみたいな行動規範だったけど、それよりも一つ進んだ形でこれからの2021年というのは新しい合併をしてきた町にとってはスタートの年になるような気がしますので、新しい時代を担う子でまた新しいG I G Aスクールということになるのだと思いますが、委員の皆様からいただいた意見を参考にさせていただきながら、新しい信頼できる、市民の皆様が信頼できる尾道教育の構築に向けて取り組んでいただけたらと思います。

また、市長部局と教育委員会がより連携を深めていって取り組んでいくことも大切だと思いますので、そのことを今のこれからも引き続き取組をしながらさせていきたいと思います。そんなところでまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

以上で協議は終了させていただきます。

その他という項目がございますが、何か御意見がございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平谷市長 ないようでございます。

それでは、皆さん大変お疲れさまでございました。

委員の皆様からいただいた、また大きな示唆をいただいたことにつきまして、参考にさせていただいて、取組をしていきたいというふうに思います。

本日は本当に皆様方ありがとうございました。

進行を事務局にお返しします。

○末國庶務課長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして令和2年度第1回尾道市総合教育会議を閉会いたします。

皆様お疲れさまでございました。

○平谷市長 ありがとうございました。

午後2時58分 閉会